



Japan
Display
Inc.
Group

2015年度 決算説明会

2016年5月12日

株式会社 ジャパンディスプレイ

1. 2015年度第4四半期及び2015年度実績 2016年度第1四半期ガイダンス

2. 売上状況

3. 経営方針

4. 中期事業戦略

【ご注意】

- ・ 本資料に記載の減価償却費は、のれん償却費及び営業外減価償却費を含みます。
- ・ 本資料に記載の研究開発費は、売上原価及び販売管理費に含まれる金額の合計です。

2015年度第4四半期及び2015年度実績 2016年度第1四半期ガイダンス

執行役員 CFO
吉田 恵一

15年度4Q トピックス

- 4Qの売上高は、中国市場における当社のシェア低下に加え、季節性と市場調整によるスマホ向けディスプレイ需要の減速により、売上高は大きく減少。売上高減少に伴う限界利益の減少により、営業損失は予想を下回った
- 15年度通期では、市場環境の悪化する中、経営改革が奏功し、売上高、営業利益ともに前年比改善。一方、4Qの急激な円高による為替差損の営業外損失計上、構造改革に伴う特別損失計上により、経常利益及び当期純利益は前年度比悪化

(億円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	減価償却費	研究開発費	為替レート (円/US\$)
4Q-FY15 (実)	1,763	-72	-228	-363	201	67	115.4
4Q-FY15 (予)	1,902	-19	-	-	203	75	115.0
4Q-FY14 (実)	2,326	107	60	-36	189	52	119.2
FY2015 (実)	9,891	167	-129	-318	809	233	120.1
FY2014 (実)	7,693	51	19	-123	709	160	109.8

■ 為替差損の発生について

- ✓ 11,246百万円を4Qの営業外費用として計上
- ✓ 為替差損発生理由：
 - ① 4Q中の急激な為替変動により、売上、仕入の計上時と決済時の為替レート差が拡大
 - ② 当社グループが保有する外貨建金融資産・負債の期末評価時点の為替レートが、前四半期末比で円高となった
 - ③ 加えて、超円高の時に発生した長期性の債務の一部返済時に為替差損が生じた

15年度4Q 連結業績

(億円)

	Q4-FY15	Q4-FY14	YoY増減	Q3-FY15	QoQ増減
売上高	1,763	2,326	▲563	3,050	▲1,287
売上原価	1,681	2,075	▲394	2,788	▲1,107
売上総利益	82	251	▲169	261	▲179
	4.7%	10.8%		8.6%	
販売費及び一般管理費	154	144	+10	128	+26
営業利益	▲72	107	▲179	133	▲205
	-4.1%	4.6%		4.4%	
営業外損益	▲156	▲47	▲109	▲51	▲105
経常利益	▲228	60	▲288	82	▲310
	-12.9%	2.6%		2.7%	
特別損益	▲139	▲91	▲48	▲11	▲128
税引前当期純利益	▲368	▲31	▲337	71	▲439
	-20.9%	-1.3%		2.3%	
当期純利益	▲363	▲36	▲327	47	▲410
	-20.6%	-1.6%		1.6%	
EBITDA	99	295	▲196	330	▲231
	5.6%	12.7%		10.8%	

15年度 連結業績

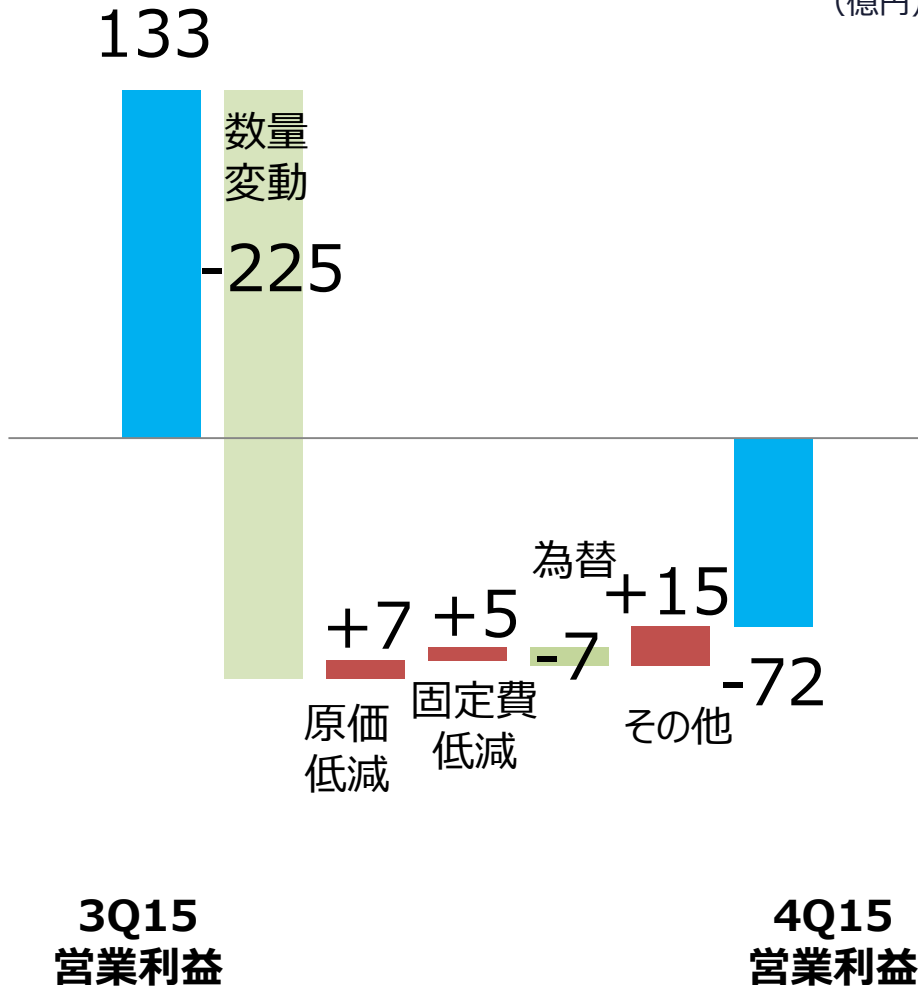
(億円)

	2015年度	2014年度	YoY増減	
売上高	9,891	7,693	+ 2,198	+ 28.6%
売上原価	9,123	7,136	+ 1,987	
売上総利益	768	557	+ 211	+ 37.9%
	7.8%	7.2%		
販売費及び一般管理費	601	506	+ 96	
営業利益	167	51	+ 116	+ 224.7%
	1.7%	0.7%		
営業外損益	▲ 296	▲ 33	▲ 264	
経常利益	▲ 129	19	▲ 148	-
	-1.3%	0.2%		
特別損益	▲ 150	▲ 101	▲ 49	
税引前当期純利益	▲ 280	▲ 83	▲ 197	-
	-2.8%	-1.1%		
当期純利益	▲ 318	▲ 123	▲ 196	-
	-3.2%	-1.6%		
EBITDA	937	757	+ 180	+ 23.7%
	9.5%	9.8%		

営業利益増減要因

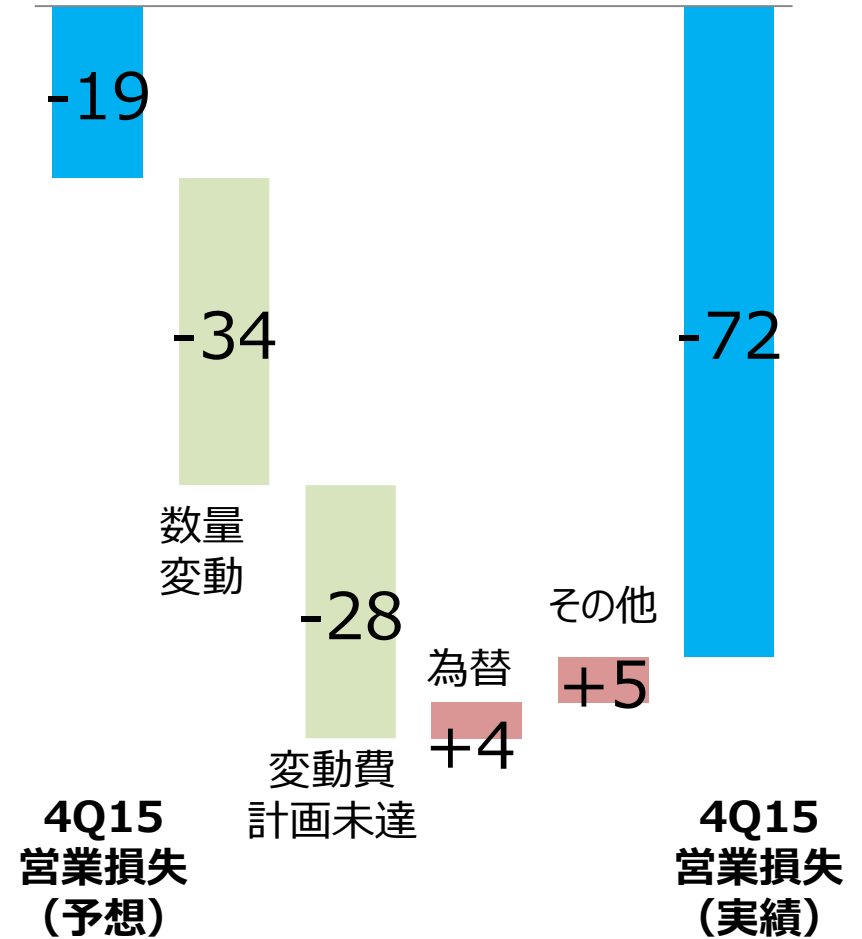
4Q-FY15 (前四半期比)

(億円)



(2/8発表予想比)

(億円)



連結貸借対照表

(億円)

	2016年3月	2015年3月	2015年12月
現金及び預金	551	946	1,200
売掛金	807	1,441	1,399
未収入金	571	628	1,063
在庫	1,141	1,134	1,197
その他	158	218	239
流動資産合計	3,228	4,367	5,098
固定資産合計	4,910	3,949	4,414
資産合計	8,139	8,316	9,512
買掛金	1,381	1,971	2,708
有利子負債	773	835	742
前受金	1,319	653	1,128
その他負債	1,013	831	884
負債合計	4,486	4,290	5,463
純資産合計	3,652	4,026	4,049
自己資本比率	44.6%	48.2%	42.4%
ネット有利子負債	222	-111	-457
商品及び製品	28	12	17
仕掛品	21	21	12
原材料及び貯蔵品	10	11	7
在庫保有日数(日)	58	44	35

連結キャッシュフロー（通期）

(億円)

	2015年度	2014年度	YoY増減
税引前当期純利益	▲ 280	▲ 83	▲ 197
減価償却費	808	709	99
運転資金※ 1	▲ 64	▲ 15	▲ 49
前受金	667	▲ 15	682
その他	383	137	246
営業キャッシュフロー	1,514	733	781
固定資産の取得による支出	▲ 1,864	▲ 1,084	▲ 780
その他	52	121	▲ 69
投資キャッシュフロー	▲ 1,812	▲ 963	▲ 849
財務キャッシュフロー	▲ 61	▲ 250	189
期末現預金残高	551	946	▲ 395
フリーキャッシュフロー ※ 2	▲ 297	▲ 230	▲ 67

※1 運転資金 = 売上債権 + たな卸資産 + 仕入債務 + 未収入金

※2 フリーキャッシュフロー = 営業キャッシュフロー + 投資キャッシュフロー

- 4Q業績の悪化により、通期のフリーキャッシュフロー黒字はならず。FY16での通期黒字化を目指す

15年度費用実績及び16年度見込み

FY2015実績

FY2016予想

設備 投資額

1,864億円

- 白山工場投資（前受金充当分含む）
- その他、更新投資等

1,500億円

- 白山工場投資（前受金充当分含む）
- OLED開発ライン敷設（茂原工場内）
- 後工程自動化
- その他、更新投資等

減価 償却費

809億円

- 前年度比 + 100億円
- 主にFY14の茂原G6ライン拡張分

1,050億円

- 白山工場分
- 東浦Fab1/茂原V3ライン廃止

研究 開発費

233億円

- 前年度比 + 73億円
- OLED開発費を増額

290億円

- OLED開発費を増額

16年度1Q 業績予想・ガイダンス

- 売上高： QoQ + 11%、YoY - 21%の1,950億円を予想
2Qから本格回復の見込み
- 営業利益： 売上高増加により改善見込み
- 熊本地震の影響について
 - ・ サプライヤーの生産に一部影響があったが、代替供給等により、現時点では調達に大きな問題は生じていない
 - ・ 顧客への供給についても、現時点では大きな影響は生じていない

(億円)

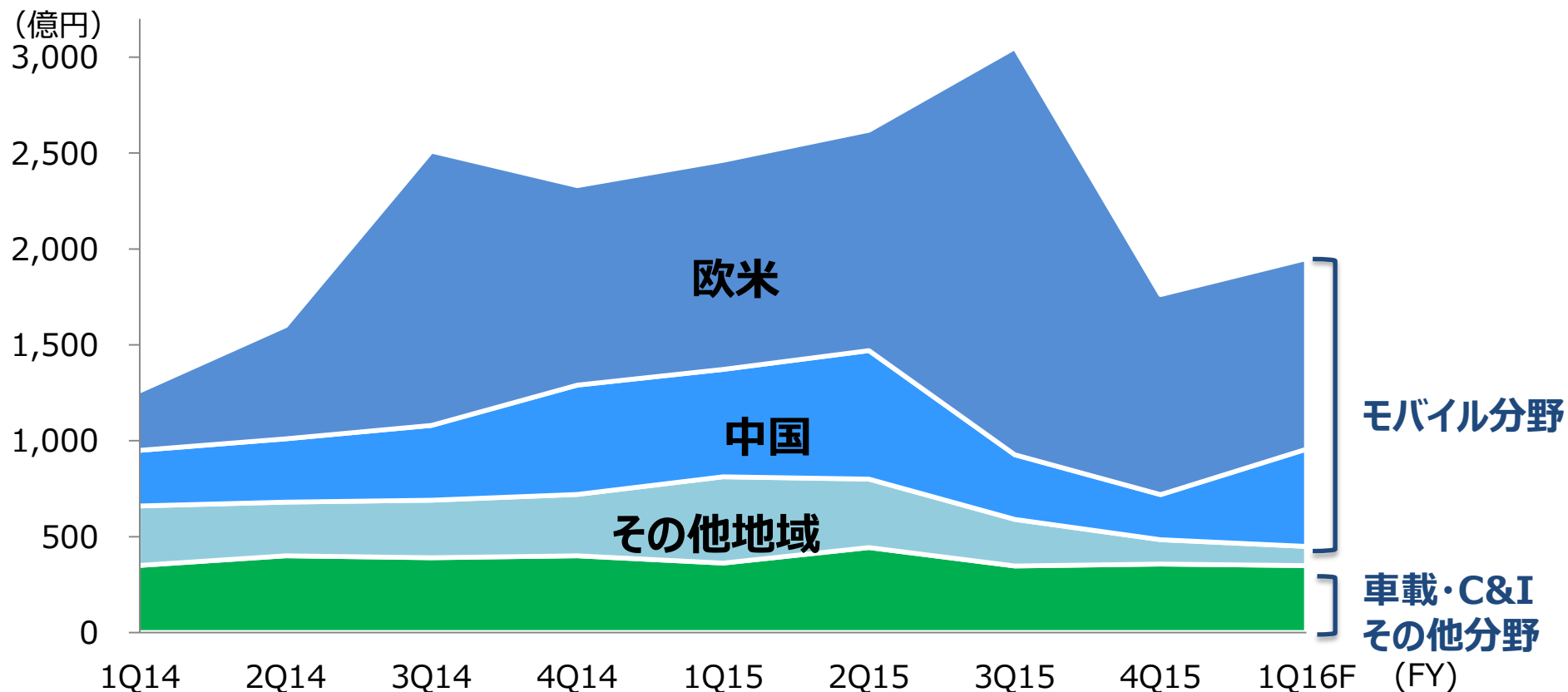
	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	減価償却費	研究開発費	為替レート (円/US\$)
1Q-FY16 (予)	1,950	10	-	-	213	47	110.0
4Q-FY15 (実)	1,763	-72	-228	-363	201	67	115.4
1Q-FY15 (実)	2,461	22	-1	-5	203	61	121.4

※1Q-FY16の為替変動による営業利益インパクトは、1円変動に対し1.8億円／四半期

売上状況

代表取締役社長 兼 COO
有賀 修二

製品分野及び顧客地域別四半期売上高推移



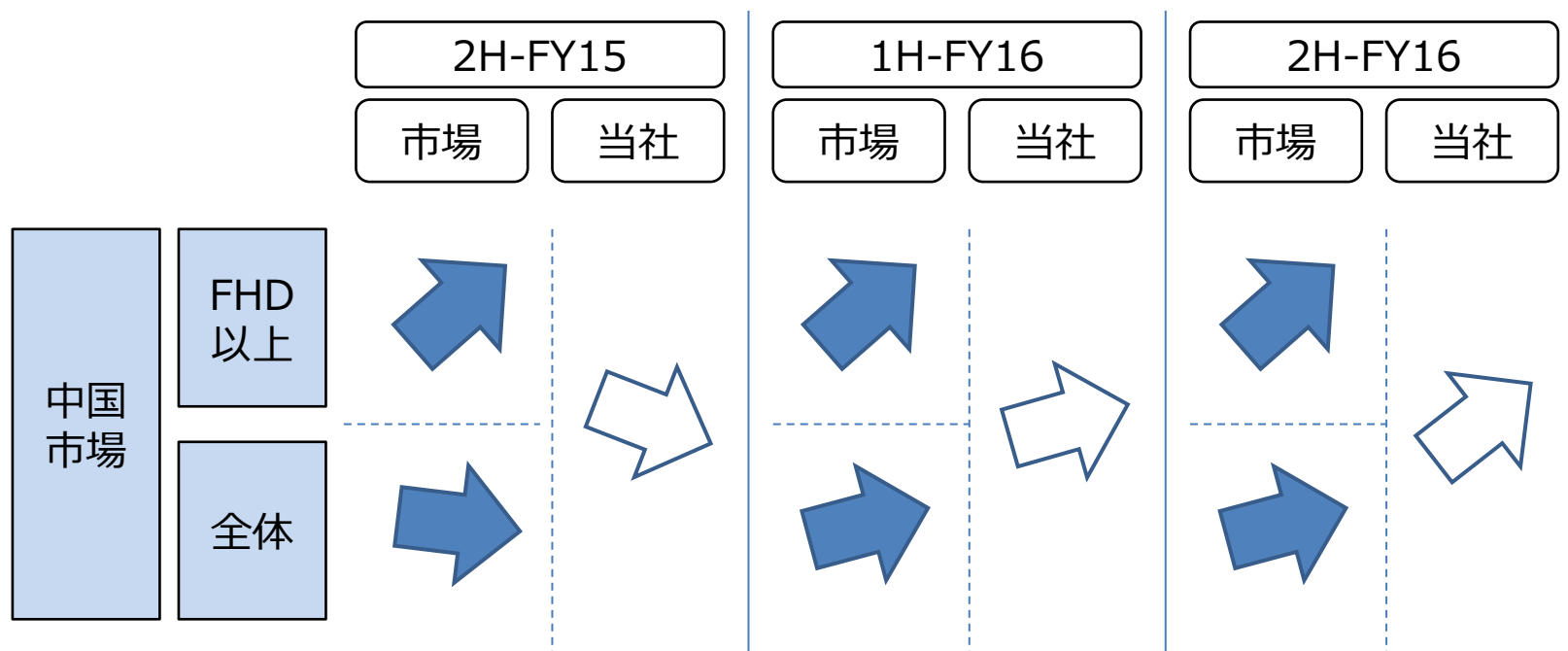
- 4Q-FY15の売上高はQoQ大幅減少。スマートフォン向けディスプレイの顧客需要が全ての地域において軟化したことにより、想定売上高を下回った
- 1Q-FY16から中国向けが回復。全体の売上高は2Q以降の回復を見込む

解像度・顧客地域別 売上高・需要状況（スマホ向け）

		4Q-FY15 売上高実績		1Q-FY16 売上	2Q-FY16 売上
		対 2/8想定	QoQ 対実績	QoQ 見込み	QoQ 見込み
WQHD	中国・アジア				
Full-HD					
	欧米				
HD720					
	中国・アジア				
Pixel Eyes™					

中国におけるスマートフォン向けディスプレイ市場動向（当社推定）

- 15年度下期は当社の狙う市場が成長する中、当社は出荷を伸ばせなかった
 - 年初にあった下期のキャパシティ不足懸念による当社受注活動の減速
 - 高価格帯での他社OLED、中価格帯での他社LTPSとの競争激化
- 厳しい競争環境を勝ち抜く商品を準備し、FY16の売上挽回を目指す

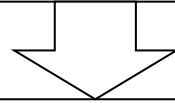


経営方針

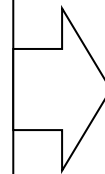
代表取締役会長 兼 CEO
本間 充

FY15の振り返り（総括）

市場	<ul style="list-style-type: none">• スマホディスプレイ販売は1-3月期に調整もFHD以上は拡大• 価格下落トレンド継続
顧客	<ul style="list-style-type: none">• 顧客優勝劣敗が顕在化• モバイル顧客の需要変動大
競合	<ul style="list-style-type: none">• 競争環境激化• 中華系新興LCDメーカーの台頭



自社	<ul style="list-style-type: none">• 経営改革において一定の成果• 車載向け販売堅調• 競合他社に対して売り負け• 結果、足下でライン稼働率低下• モバイル依存の事業構造変わらず
----	--



4Qの業績は
踏ん張れず計画
すら守る事が
出来ず

FY15の回顧と反省 <経営改革の実績>

損益分岐点引き下げ

原価低減
固定費削減
ロスコスト削減
中国オペレーション改革

- FY15-4Qの損益分岐稼働率はFY15-1Qに対して24.5ポイント改善の64.5%に
- 仕損費、直材費、固定費が大幅に削減
- 中国後工程サイトの再編に着手
- 物流倉庫の一元化
 - 華南地区：7→1拠点、華東地区：6→2拠点へ集約

キャッシュフロー健全化

リードタイム短縮
在庫削減
売掛債権回収の短期化

- 生産リードタイムを10日短縮
- 売掛債権回収の短期化を実現
- 4Qの業績悪化等によりFY15のフリーキャッシュフローは黒字化ならず

意識改革

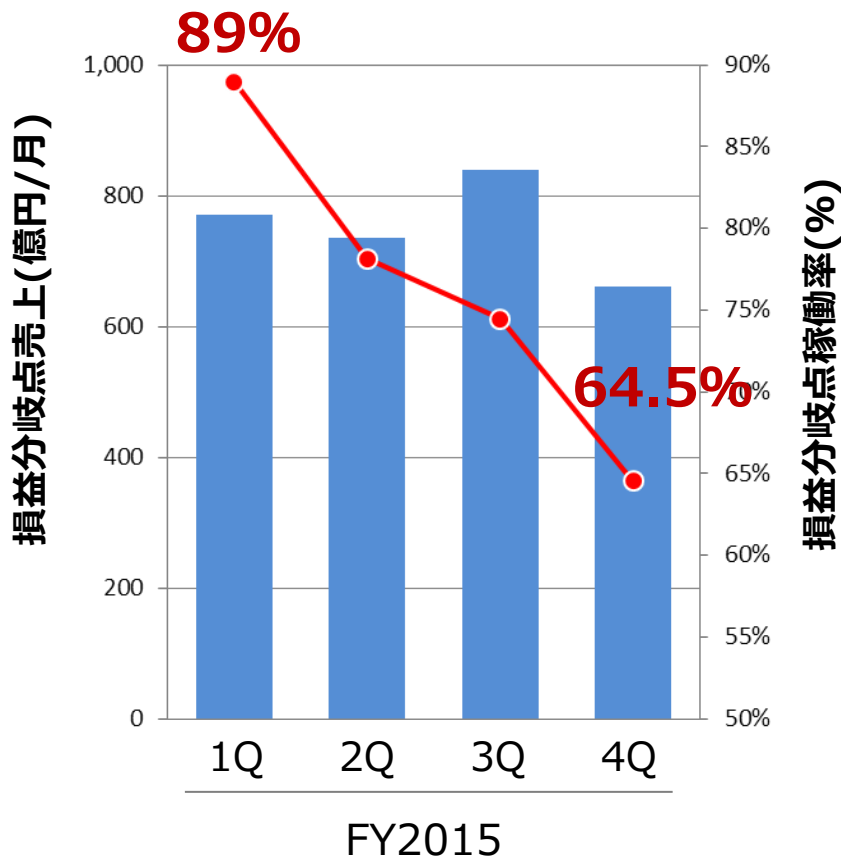
責任所在の明確化
計画遵守の執念
無理・無駄の排斥
危機意識の醸成
CRM

- 事業本部と機能本部が自主経営責任を持った事業運営が実現
- 経営理念・行動基準の制定

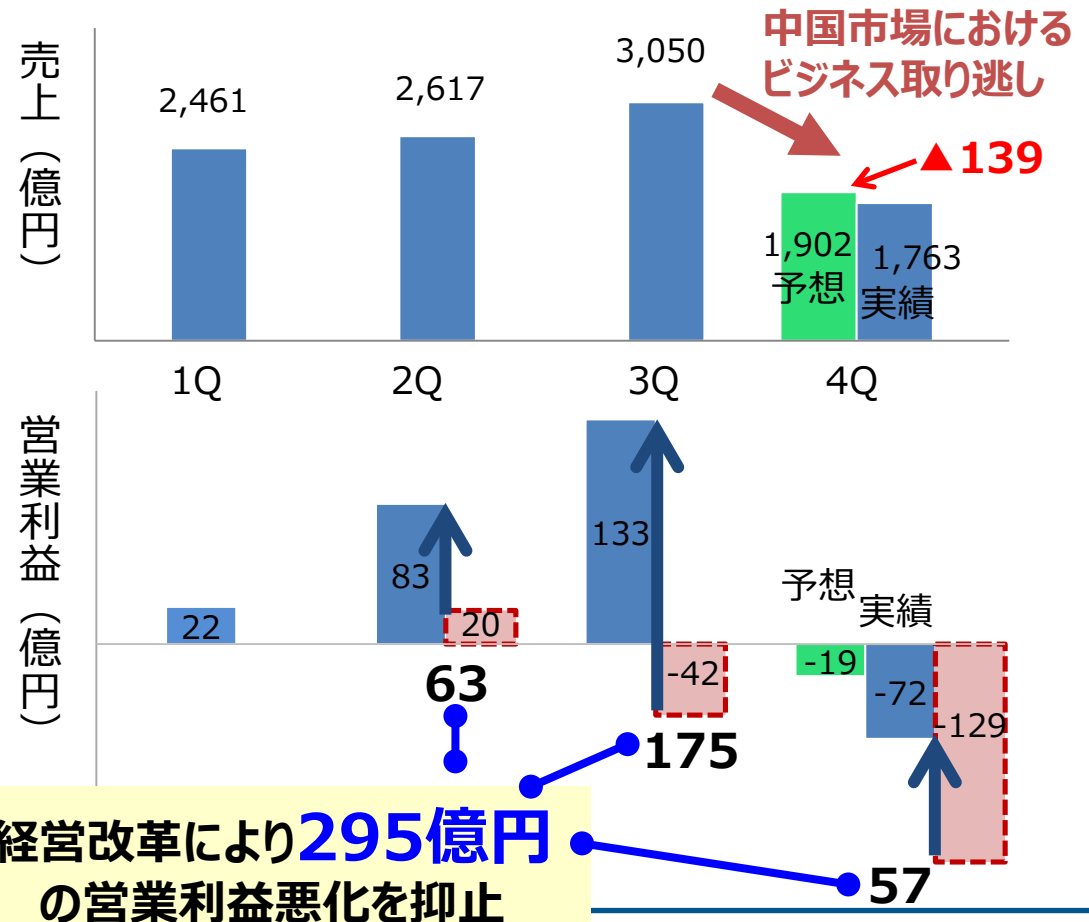
経営改革の成果

- 損益分岐点稼働率を89%→64.5%へ24.5ポイント引き下げ
- 営業利益の改善効果金額≒295億円/年

損益分岐稼働率



経営改革PJの効果



2015年度の反省

- 中国市場において現在も拡大中のFHD以上の分野で失地
→ 差異化技術、コスト作りで失地挽回の活動をするも間に合わず
- 上記理由により、売上高は1,902億円の予想から1,763億円への139億円の急減に対応しきれず大幅欠損を招いた
→ オペレーションで挽回努力するも、予想営業利益は大幅未達となった。加えて、急激な為替変動により、営業外でも大きな為替差損を計上（管理上にも弱点）
- 4Qで公表値が厳守出来なかった事は猛省すべきもの
- 然し、過去からのレガシーの整理は行うことが出来た

中期を見据えた方針

15年7月

16年4月

21年

第1 フェーズ

経営改革プロジェクト

- ・損益分岐稼働率引き下げ
- ・キャッシュフロー健全化
- ・意識改革

継続的改善

第2 フェーズ

構造改革プロジェクト

- ・抜本的な固定費削減

第3 フェーズ

事業構造変革プロジェクト（ノンモバイル比率50%）

車載 : 3,000億円を目指した技術提案

新規事業 : 事業化/早期立ち上げ

- 通信5世代を意識した技術開発

- VR/AR・高精細ノートPC・タブレット・指紋センサー・サイネージなどの市場開拓

OLED : OLED技術の進化と事業化の推進

中国市場での失地を技術力とコスト力で奪還

- ① 経営改革プロジェクトの踏襲
- ② 構造改革の断行による固定費の一段の削減
- ③ 事業構造変革による将来の安定収益基盤造り

① 経営改革プロジェクトの踏襲

- － 総原価削減プロジェクトの推進（コスト競争力強化）
- － 損益分岐点稼働率の引き下げ
- － キャッシュフロー経営の徹底（税前利益最大化、在庫削減）

変動費削減

KPIの実現・実行
直材費・仕損費・加工費

固定費削減

売上高比25%目指す
製造外固定費の圧縮

② 構造改革の断行による固定費の一段の削減

- － 4Q-FY15に139億円の事業構造改革費用を計上
- － これにより、向こう3年間で420億円の効果を見込む

前工程工場※

東浦一部稼働停止（4月）

V3稼働停止a-Si/LTPS（12月）

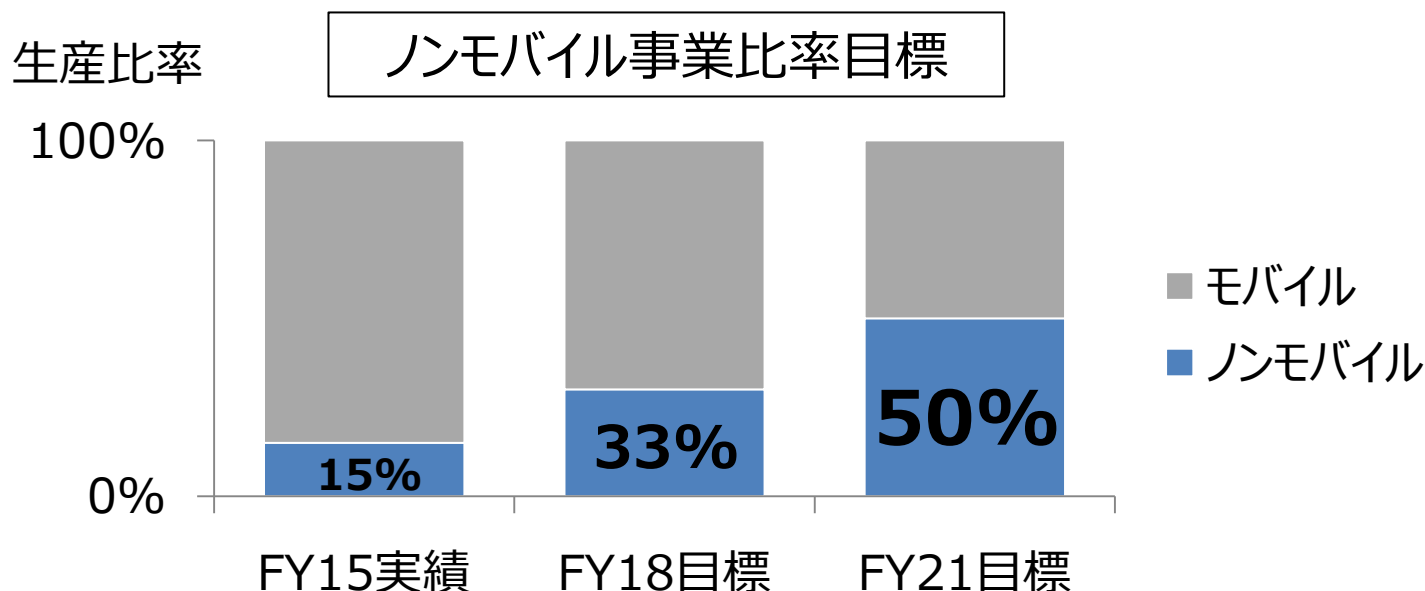
後工程工場

拠点再編（7月末までに完了予定）

※前工程工場の稼働停止と合わせ、再就職支援活動を伴う早期退職支援制度を導入し、組織の年齢別人員構成の適正化に取り組む

③ 事業構造変革による将来の安定収益基盤造り

- 中国市場攻勢
- 顧客への徹底した提案営業
- 車載拡販・ノンモバイル事業拡大(新規事業の種まき・早期事業化)
- OLEDの開発加速



中期事業計画経営目標

■ 安定した収益基盤の確立

2018年に売上1.2兆円、営業利益率10%
2021年に売上1.5兆円、営業利益率15%、
EBITDA：20%、ROE：10%以上を目指す

■ 事業ポートフォリオの変革により、ノンモバイル領域を2018年に33%、2021年には50%の事業構造を目指す（生産比率）

- ・ CMOS (LTPS/Advanced-LTPS) を技術コアとして付加価値の高いディスプレイ領域へのシフトを目指す

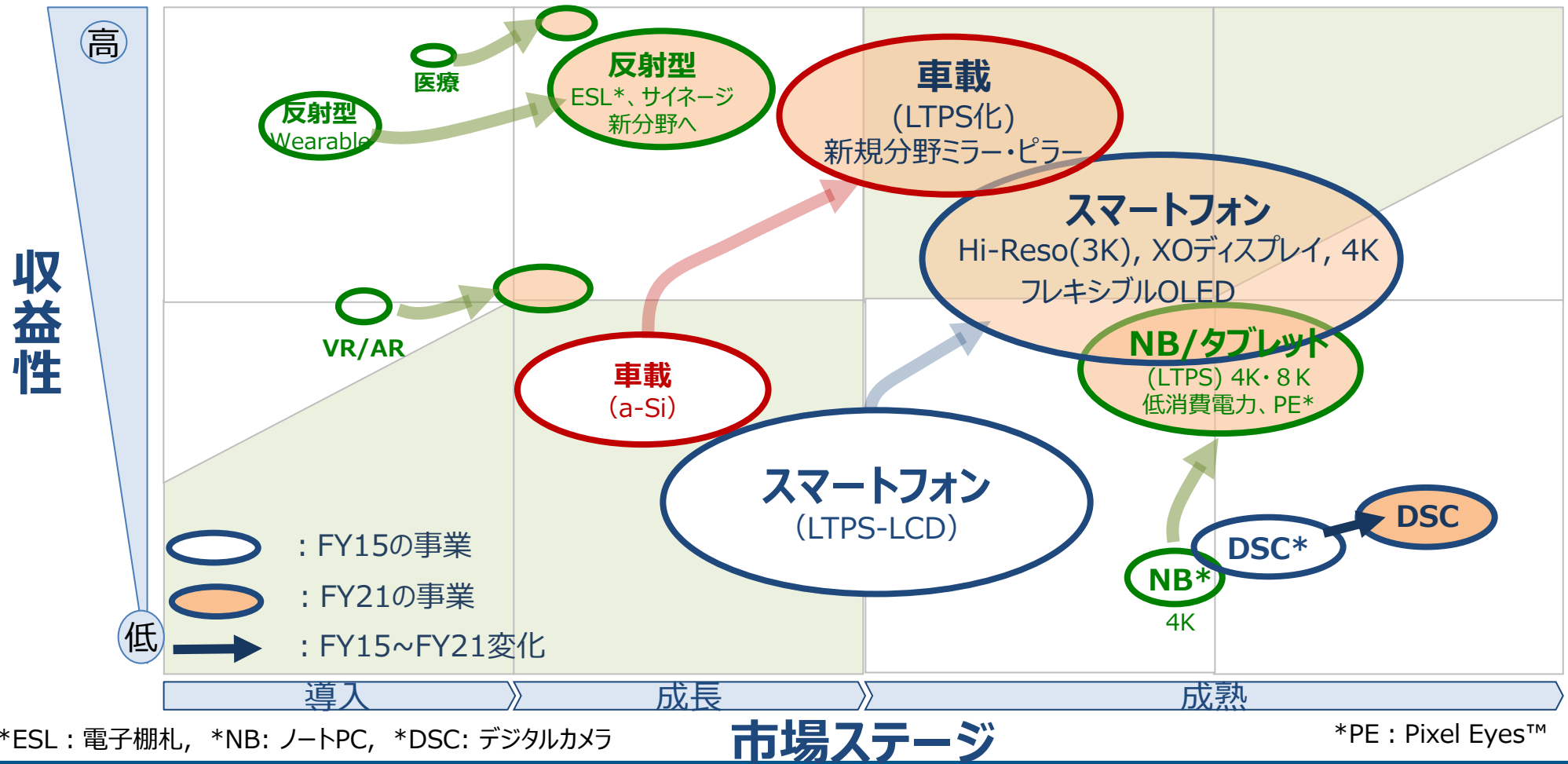
■ OLEDでの差異化技術開発、18年の早期量産立ち上げ

中期事業戦略

代表取締役社長 兼 COO
有賀 修二

中期(FY16-FY21)事業計画ポートフォリオ

- モバイル一本足からの脱却（事業ポートフォリオの変革）
→ 第2の事業軸としての車載、第3の事業軸として新規事業拡大



*ESL : 電子棚札, *NB: ノートPC, *DSC: デジタルカメラ

*PE : Pixel Eyes™

市場ステージ

(1) プラットフォーム技術の進化

(PE^{*1}の進化、Advanced-LTPS、XOディスプレイ^{*2})

- ・ 中国市場攻勢（LTPS競合への備え）
- ・ 徹底したコスト開発の推進

(2) ノンモバイル事業拡大（車載事業拡販、新規事業立上げ）

- ・ 車載はLTPSによる差異化（低消費電力、デザイン性）
- ・ 高精細ノートPC・サイネージの早期立ち上げ
- ・ VR/AR市場に参入

(3) 2018年フレキシブルOLEDの量産化

*1 PE: Pixel Eyes™

*2 仮称

(1) プラットフォーム技術の進化

■ Ad-LTPS、PEの進化、XOディスプレイをJDIコア技術とする

ターゲット市場

VR/AR

スマホ

Tablet
・PC

車載

サイネージ

産業医療

市場別要求

- ・精細度
- ・フレームレート
- ・コントラスト
- ・消費電力

- ・精細度
- ・消費電力
- ・価格
- ・デザイン
- ・UI/UX

- ・重量
- ・消費電力
- ・価格
- ・デザイン
- ・UI/UX

- ・光学信頼性
- ・価格
- ・デザイン
- ・UI/UX

- ・視認性
- ・消費電力
- ・デザイン
- ・UI/UX

- ・精細度
- ・コントラスト
- ・デザイン
- ・UI/UX

LTPS技術の革新

デザイン
自由度

モジュール
構造

従来モジュール構造（薄型、狭額縁）

XOディスプレイ(仮称)

UIの
進化

Pixel
Eyes™

Gen-1
薄型
コスト競争力

Gen-2
狭額縁・高タッチ感度・リアルブラック
1chip IC(コスト競争力)

次世代UI
さらなる低消費電力
センシング機能

低消費
電力

バック
レーン

LTPS

Advanced-LTPS

プラットフォーム技術の進化 (Advanced-LTPS)

- Ad-LTPSは、低消費電力と高いデザイン性（使い易さ）を両立

		LTPS	Advanced-LTPS	TAOS (酸化物半導体)	
トランジスタ性能	移動度 [$\mu\text{cm}^2/\text{Vs}$]	Good(100)	Good(100)	Fair(10)	
	リーク電流	劣	優	優	
製品性能	精細度	有利	有利	普通	
	駆動電力	低周波駆動	~30Hz	~1Hz	
	動画対応	高周波駆動	可能	可能	
	デザイン性 使い易さ	額縁サイズ	有利	有利 (0.5mm)	不利
		システムインテグレーション	可能	可能	不可

プラットフォーム技術の進化 (Pixel Eyes™)

PE Gen-1

~FY15



マルチタッチ

PE Gen-2

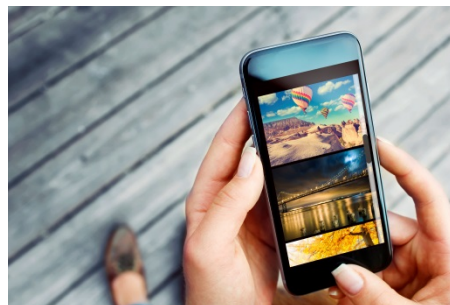
FY16



狭額縁
Real Black
Water Tracking
高精細スタイルス
毛筆描画

次世代UI

FY17~



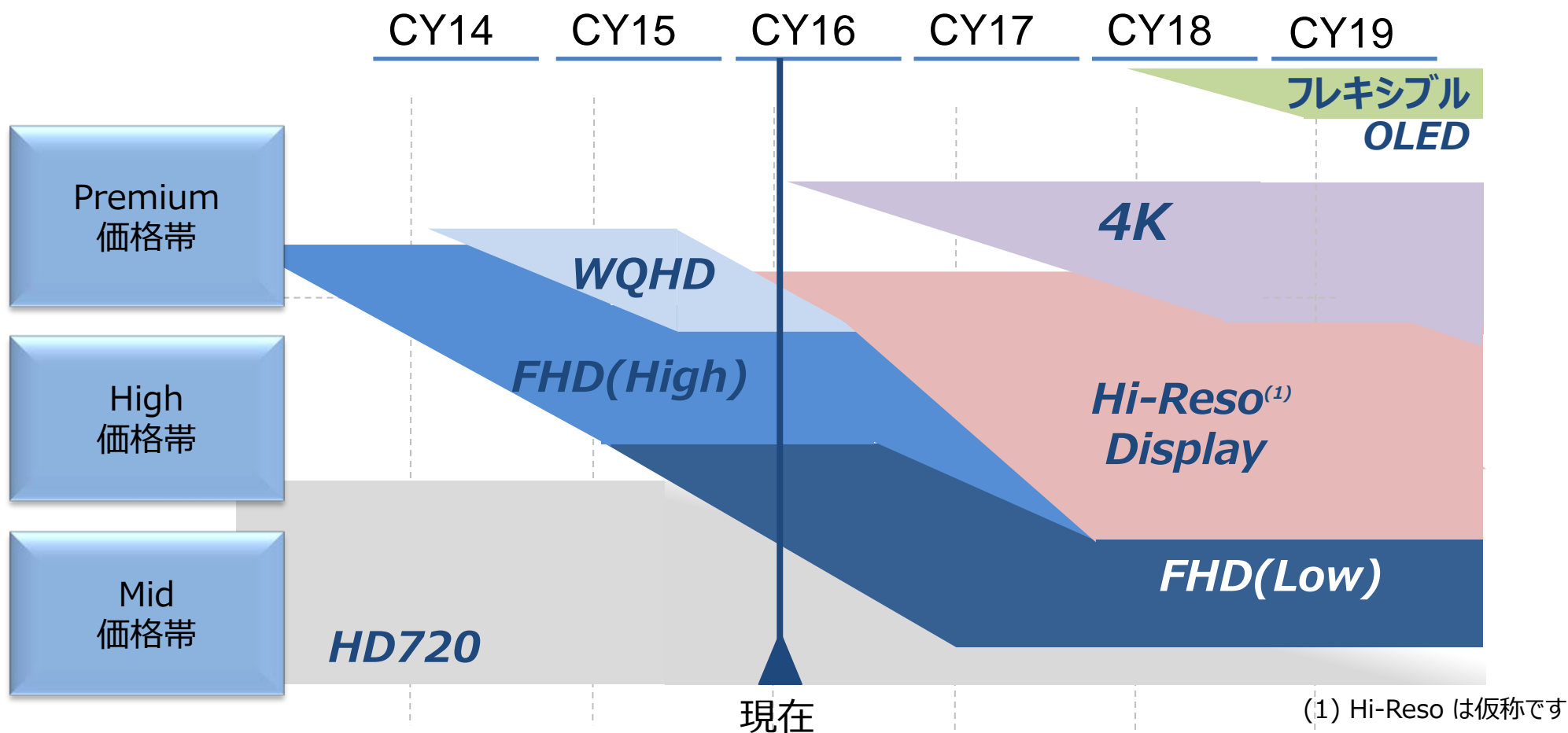
次世代 UI
曲面
フレームレス
新駆動低消費電力
エッジディスプレイ
ホバリング
プロキシミティ



センシング機能
And more...

中国市場への攻勢

- Hi-Reso⁽¹⁾、4 Kディスプレイで高精細へのシフトをドライブする
- 厳しい市場環境を勝ち抜くために、更なる原価低減を推進する



(2) ノンモバイル事業の拡大

車載



ウェアラブル



サイネージ



高精細ノートPC



VR/AR



医療



指紋認証



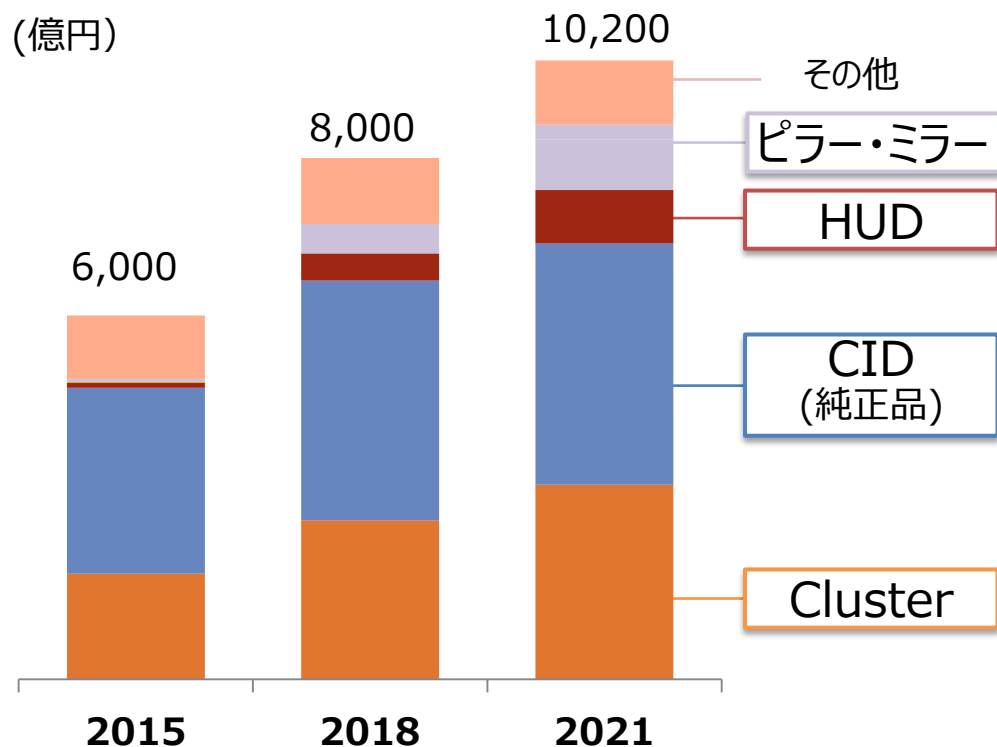
その他



ノンモバイル事業の拡大 ①車載事業

- LTPS展開により、カテゴリー毎に高付加価値製品群を構築して市場投入
- 2021年に3,000億円以上を目指す

車載ディスプレイ市場予想





(出所) 調査会社のデータを基にJDI作成

LTPSで市場創出を仕掛ける



ノンモバイル事業の拡大 ② 高精細ノートPC/タブレット

		Advanced-LTPS	TAOS(酸化物半導体)
			
額縁幅	左/右	50%スリム化	100(規格化)
消費電力	パネル+システム	50%減	100(規格化)
	バックライト	25%省エネ	100(規格化)
	Total	35%省エネ	100(規格化)

薄・軽

- ✓狭額縁
- ✓薄型
- ✓センサーインテグ (Pixel Eyes™)

鮮やかな画面

- ✓高精細 (4K/8K)

バッテリー長持ち

- ✓低消費電力 (可変周波数駆動)

ノンモバイル事業の拡大 ③新市場領域

サイネージ

- ✓ 反射型超低消費電力
- ✓ 超狭額縁スリムデザイン(タイリング)

交通運行情報



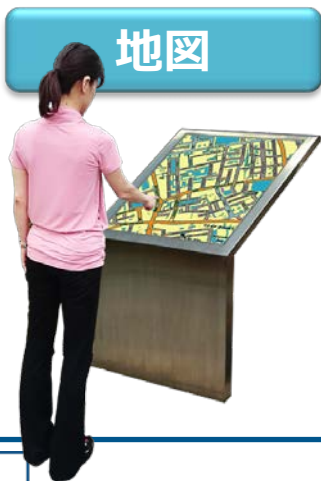
施設案内



スコアボード



地図



マルチタイリング化による大画面化



店頭メニューボード



VR/AR

- ✓ 超高精細 (650→1000ppi)
- ✓ 動画特性 (3ms, New IPS)
- ✓ 高コントラスト

HMD



(3) JDIのフレキシブルOLED開発方針

OLED開発・生産方針

- **FY16中に茂原G6量産試作ラインへの投資を実施**
- **FY18半ばの量産開始を目指す**
- **当社の強みであるLTPSバックプレーン技術を活かしたAdvanced-LTPS フレキシブルOLEDを開発**
- **フォロワーとしてのアドバンテージを活かし、高い生産性をもって競争力を獲得**

(株) 半導体エネルギー研究所との技術開発契約について

- **OLEDを始めとする次世代ディスプレイのバックプレーン技術について、技術開発契約を締結**
- **LTPS技術に加え、酸化物半導体技術についても半導体エネルギー研究所の保有する技術リソースを活用して開発を推進**
- **両社の強みを生かした新製品開発を推進**

技術力 × コスト競争力 × 製造力

**ノンモバイル比率を拡大し、
安定した収益基盤を確立します**



将来予測及び見通しに関して

本資料に記載される業界、市場動向または経済情勢等に関する情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しているものであり、当社がその真実性、正確性、合理性および網羅性について保証するものではありません。

また、本資料に記載される当社グループの計画、見積もり、予測、予想その他の将来情報については、現時点における当社の判断又は考えにすぎず、実際の当社グループの経営成績、財政状態その他の結果は、国内外の個人消費その他の経済情勢、為替動向、スマートフォンその他の電子機器の市場動向、主要取引先の経営方針、原材料価格の変動等により、本資料記載の内容またはそこから推測される内容と大きく異なることがあります。